

## 松井和夫教授追悼号の刊行にあたって

学長 重 森 曉

松井和夫先生は、本年（2004年）1月逝去されました。退職を間近にひかえながら、それを待たず逝去されたことは、まことに残念でなりません。

先生は、1935年3月に生まれました。1958年に神戸大学経営学部を卒業し、同年に大阪市立大学大学院に進学し、1963年に博士課程単位取得されました。同年に大阪証券研究所研究員として就職し、同研究所で30年近く調査・研究に専念されました。本学には、1991年、経済学部教授として就任し、13年間国際金融論を担当されました。

先生の研究の特徴は、第一に、1980年代のアメリカ企業のM&A、1990年代の金融と産業の再編などに見られるように、つねに時代の最先端の問題を取り上げられていることにあります。第二に、研究対象とする国が、アメリカ、日本そしてヨーロッパと、世界の主要資本主義諸国の活動を網羅し、広範囲におよんでいることです。第三に、研究対象領域も、金融市場はもちろん、自動車、宇宙産業などの製造業を含み、金融サービス産業と製造業との関係をトータルにとらえようとされていることです。さらに、こうした視点から必然的に導き出されるアメリカの多国籍企業論、日米の株式所有と支配関係の研究など、研究領域はまことに多面的です。

松井先生は国際金融に関する学界を代表する研究者であるばかりでなく、現代資本主義研究の先端分野におけるオピニオン・リーダーの一人でもありました。先生の活躍の原動力は、独自の才能や努力はもちろんのこと、ずば抜けた知的好奇心を絶えることく持ちつづけられたことにあります。多くの研究者は、このような松井先生の知性と研究態度に引かれ、先生の下に集まり、やがてそれは、現代アメリカ経済や日本の株式構造の研究ネットワークとなりました。このことは、先生が若手研究者の優れた育て手でもあったことを示しています。

優れた研究者は、学生にとっては優れた教育者でもありました。講義の内容やスタイルは、先生の研究活動の延長線上にありました。講義に際して、毎回、世界中の企業活動を示す多くの最新資料を配布され、世界の現状を熱っぽく語られました。これは、できるだけ多くの最新情報を学生に提供し、世界経済の最先端の問題を学生と語ることによって、世界を知る魅力を学生に伝え、研究の面白さを学生と共有されようとされたからです。学生たちも、世界をまたにかけたスケールの大きい講義に感銘を受けたのはいうまでもありません。この名講義をもはや聴くことができないと思うと、学生のためにも残念と、大学人として無念でなりません。

松井和夫教授の追悼論文集に寄稿された諸先生には、厚く御礼申し上げます。昨年12月

に先生にお会いしたとき、これからの研究について意欲的に語られていた、一途で、澄んだ目を忘れることが出来ません。先生のご冥福を心からお祈りします。